

## 令和元年度 いじめ防止啓発事業案一覧

いじめ防止啓発事業の趣旨	いじめ防止をテーマにした啓発事業を継続して行うことにより、子どもや保護者をはじめ市民全体にいじめをなくそうとする意識を定着させる。
--------------	---

No.	実施案	メリット	デメリット
1	ロゴマークのデザイン (円の中に描く)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受賞作品を啓発グッズに使用できる。</li> <li>啓発グッズに使用されるため、応募意欲がわく。</li> <li>絵が苦手な人もポスターなどを作成するより、気軽に取り組みやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デザインによってはグッズ化が難しい可能性がある。</li> <li>マークで「いじめ防止」を連想させることが難しい。</li> <li>審査基準の設定が難しい。</li> </ul>
2	昨年度の受賞作品をもとにイラストを作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>受賞作品を啓発グッズに使用できる。</li> <li>啓発グッズに使用されるため、応募意欲がわく。</li> <li>テーマが絞られているため、考えやすい。</li> <li>昨年度の受賞作品が使用されるため、受賞者は意欲を持って、継続的に啓発事業に関わることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デザインによってはグッズ化が難しい可能性がある。</li> <li>作品を見ただけで「いじめ防止」が連想しにくい。</li> <li>受賞作品によってはイラストにすることが難しい。</li> <li>絵が苦手な人は取り組みにくい。</li> </ul>
3	イメージキャラクターを作成 (ゆるキャラ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>受賞作品を啓発グッズに使用できる。</li> <li>啓発グッズに使用されるため、応募意欲がわく。</li> <li>愛着・親近感につながる。</li> <li>今後の啓発事業に幅広く活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵が苦手な人は取り組みにくい。</li> <li>作成に時間がかかる。</li> <li>著作権に反しているかどうかの判断が難しい。</li> </ul>

No.	実施案	メリット	デメリット
4	標語でいじめ防止を表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>受賞作品を啓発グッズに使用できる。</li> <li>作成が容易で取り組みやすい。</li> <li>過去に2回実施しているため、定着化につながる。</li> <li>考える過程で親子での会話が生まれる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組自体に飽きて応募しない可能性がある。</li> <li>応募作品が似通った作品になる可能性がある。</li> <li>過去の受賞作品と似通った作品になる可能性がある。</li> </ul>
5	いじめに関するクイズを出題（景品付）	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな取組であるため新鮮さがある。</li> <li>気軽に取り組みやすい。</li> <li>景品があると、応募意欲がわきやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クイズの内容に考慮する必要がある。</li> <li>景品の配布など、学校側の負担が増える。</li> </ul>

※上記の事務局案以外に、取り組めそうな事業があれば是非ご提案ください。